

古田足日と子どもの文化をめぐる総合的考察 —蔵書・資料のデータベース化、調査を基に

仲本 美央・鬼頭 七美・高田 文子・井原 哲人

研究・活動実績の概要

共同研究の第1年目にあたる2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大にともなう緊急事態宣言が発令されたため、9月までは活動できない状態にあった。しかしながら、活動できるようになってから、まず古田足日の文学観や思想を知るべく、古田足日の評論と創作を題材として研究分担者による研究会を9月に開催し、相互に情報交換を行った。その後、白梅学園大学に寄贈された古田足日の蔵書資料の精査に当たり、事前に、今後の研究に必要なと思われる入力項目をあらかじめ設定したフォーマットを作成し、このフォーマットに書籍やファイル、ノート類の情報を入力していくリストアップの作業を、毎月5～8回のペースで行った（詳細な作業日時は別表1の通り）。この作業は、主に古田足日の仕事場のデスク周りに配置されていた書籍を中心に行い、2020年度においては、約1500点の書籍等のリストアップが完了している。

また、2020年度の共同研究に先立つ前年度2月に古田足日夫人の文恵氏と、古田足日と田畑精一の共同創作である「おしいれのぼうけん」の担当編集者だった酒井京子氏へのインタビュー調査と、児童文学の書き手として活躍されている今関信子氏、一色悦子氏、山口節子氏と、もと童心者編集長・取締役を務めた池田陽一氏へインタビュー調査を敢行した。このインタビューは古田家の蔵書の前で行われ、このとき撮影された一部の写真とともに、白梅学園大学・短期大学図書館報「花みずき」第34号（2020・4・1）に「古田足日氏寄贈資料プロジェクト始動！」と題されて紹介された。また、このときのインタビュー調査の

うち、酒井京子氏のインタビュー内容は、その後、ちひろ美術館・東京において開催された「没後1年 田畑精一『おしいれのぼうけん』展」（2021年3月16日～6月13日）に資料提供された。

9月に開催された研究会での論考をもとに、11月の第59回日本児童文学学会研究大会において、研究協力者の佐藤宗子氏（千葉大学名誉教授）による学会発表が行われた。この発表内容は「千葉大学教育学部研究紀要」69号（2021・3・1）に、「現代児童文学」展開期における「アンドロイド・アキコ」の模索：古田足日の「近代」「ジェンダー」「子ども観」と題して論文化された。また、同じ研究会での論考をもとに、共同研究者の西山利佳准教授によって「古田足日論序説：「実感的道德教育論」を中心に」と題して論文化された。1月には、高田文子と仲本美央によって「おしいれのぼうけんの制作過程にみる古田足日の絵本観」「ロボットカミイの制作過程にみる古田足日の紙芝居観」と題して日本保育学会での2021年度の発表エントリーがなされ、発表要旨を提出し、同年5月には学会発表が行われた。

神奈川近代文学館と連携して、蔵書や各種資料等の展示および映像展示の準備を兼ねて、3月に神奈川近代文学館内で打ち合わせを行った。新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるため、展示の準備は難しいものの、破損の激しい資料の保存技術の一部を伝授され、今後の資料精査の際の指針とするべきことが確認された。

2021年度はこれら一連の取り組みを発展的に継続し、それら研究として得られた成果を基に、さらなる論文化や神奈川近代文学館と連携した蔵書や資料、映像等の展示の実現に向けて準備を行っ

ていく予定である。

別表1

文献調査作業日（2020年10月～2021年7月）

作業年月	AM	PM	合計
2020年10月	4回	3回	7回
11月	3回	2回	5回
12月	5回	1回	6回
2021年1～3月	文献調査活動休止		
4月	1回	3回	4回
5月	6回	4回	10回
6月	1回	1回	2回
7月	3回	4回	7回

※コロナウイルス感染防止対策のために、AM 10:00～12:00 / PM 13:00～15:00に分けて作業を行った。(学外者が入構する日は、学内者が同席のもとで作業を行っている。)

別表2

プロジェクト会議日等（2020年4月～2021年3月）

活動日時	内容
2020年4月16日(木)12:00～	会議・研究打ち合わせ
2020年4月25日(土)15:00～	会議・研究打ち合わせ
2020年9月15日(火)10:00～	研究会
2020年12月1日(火)12:00～	会議・研究打ち合わせ
2020年12月17日(木)18:30～	会議・研究打ち合わせ
2020年12月23日(水)12:00～	全体打ち合わせ
2021年3月9日(火)13:00～	神奈川近代文学館訪問